

## 平成22年(2010年) 定例会(第3回) 代表質問

---

平成22年8月30日～9月16日 午後1時

---

### ◆質問内容

緑政クラブの椎名幸雄でございます。緑政クラブを代表いたしまして大綱4点につきまして質問をさせていただきます。

緑政クラブは、緑豊かな自然と市民が共生し、安心して安全なまちづくりを理念に活動をしています。

今年の日本の状況はどうでしょう、政治の世界、一般社会の状況、自然界の状態、何か、異常な気がします。

円高が進み、株価は下降線の一途をたどり、経済状況の悪化がさげばれる中、政権与党はここ一カ月の間、無為無策で、総裁争い。

社会では育児放棄による悲惨な事件、そして増え続ける幼児虐待事件、高齢者不明事件。自然界においては、異常な天候による洪水での被害の拡大、干ばつによる農作物の被害、熱中症患者の増加、全国で熱中症により病院に搬送されたのは5月末以降8月22日現在で約41,000人、死亡が確認されたのは145名となっているそうです。

平成22年8月7日より甲子園球場で行われた、第92回全国高校野球選手権大会において、この猛暑の中、好投手、中川選手を擁した成田高校の戦いは立派でした。またその勇姿が、「さわやか」で心にのこる出来ごとでした。

通告により大綱4点につきまして質問をさせていただきます。

### ●大綱1、財政について

毎年財政については頭を痛めております。

知恵を出し、問題を解決して行かねばなりません。

景気の回復が見えず、団塊の世代の退職、政権交代による政策の不透明、雇用情勢のさらなる悪化が進んでおります。

また口蹄疫の問題、天候不順による水害、土砂崩れによる被害等が追い打ちをかけております。幸いにして東葛地区には大きな被害も無く、天に感謝を致しております。

平成22年7月16日に広報あびこが配布されました。

この中に平成21年度予算の執行状況が掲載されておりました。

前年対比等を記載したグラフや表があり、見やすく、

市民の方々は予算の執行状況や基金の状態が分かり易かったのではないのでしょうか。

これらの中から問題点が分かってまいります。

一般会計において、実際の収入は348億7674万円で支出は335億7241万円になっており、差し引きは、13億0433万円となり、

そのうち2億1458万円は22年度への繰り越し事業の財源に充てられ、

10億8975万円が22年度へ繰り越しとなります。

しかし、市税収入は毎年減少傾向にあり、21年度は2億0263万円の減収、又、国庫補助金、各種交付金が減っている、歳出を補ったものが

臨時財政対策債6億8000万円です。

今後国よりの補助金等も市が思う様な金額は見込めないでしょう。

少子高齢化、人口減時代に突入し、市税収入は毎年減少の道を進むでしょう。

民生費は必ず一定割合で増加をします。

この差は益々大きくなります、この差を縮める方法を取らなければなりません。

この差を縮める良薬はあるのか、ますます身を削り行財政改革を進めるのか、新たな産業の誘致などによる産業の振興を図るのか。

現在日本の借金は882兆円。来年度の予算においてはまだまだ増えるのではないかと  
言われております。

千葉県は2兆6000万円、一人当たり約43万円、

我孫子市の市債は273億4708万円、一人当たり約20万円であります。

我孫子市の場合まだ他市と比較すると少ないようです。

しかし借金であることには変わりません。

### ★質問をさせていただきます。

質問1、 今後の市税収入の動向をどのように予測しますか。

質問2、 税収入増を図るため、現在行われている対策、  
及び今後行わなければならない対策は。

質問3、 市債削減についての考え、及び方法はどの様になりますか。

### ●大綱2、 広域行政について

#### ごみ処理施設について

21年第3回定例会において一般質問で広域行政について質問を致しました。

東葛広域行政連絡協議会全体に掛かる問題でなく、隣接する柏市、取手市との問題であり、  
文化会館、及びごみ処理施設、スポーツ施設の相互利用でありました。

今回は代表質問であり具体的にお聞きしたいと思います。

当市の焼却施設について、21年第3回定例会の回答では、

「市の財政状況から考えますと我孫子市が単独で建設するほか、広域による共同設置の可能性や、  
処理能力に余裕のある市への委託についても検討していきたいと考えております。

検討に当たりましては、ごみ処理委託料と新設した場合のコスト比較など総合的に検討して  
まいります。」でありました。

ごみ焼却施設は平成24年3月には減価償却資産の耐用年数に達します。

平成19年度に実施した施設精密機能検査を踏まえ、適正な維持管理や整備補修をして  
耐用年数を7~10年延長して稼働をする。

今後新たな焼却施設を整備する場合は財政上の理由等から単独でごみ処理問題を  
解決することは非常に困難になるでしょう。

しかし現実的に見ると耐用年数が迫ってきている、現在の焼却炉が稼働出来なくなる時まで  
新しい施設ができるだろうか、あるいは委託先が見つかるだろうか、

と心配になってしまいます。

過日テレビの報道でごみの収集が出来なくなってしまった都市の場面を

映しだしておりましたが、いたるところごみの山であり都市機能が

マヒしてしまう程でありました。

他市との共同建設であっても建設地問題、環境アセスメント、搬入道路等の解決には  
相当の年月が掛かります。

仮に現在の場所に建設をした場合、利根川沿いの道路、

常磐線の下は大型車両のすれ違いができず、手前で待っている状況です。

大がかりな改修工事が必要でしょう。

又、北新田を通る広域農道、全面的な拡幅工事が必要となります。

現在政権が交代し話が進んでおりませんが、千葉、柏道路が建設されれば、

交通としては非常に利用価値があがりますが、不明であり、

計画に組み込めないのが残念であります。

### ★質問をさせていただきます。

質問①ーア ごみ処理施設建設は単独か共同設置か

①ーイ 柏市とのごみ処理施設建設について協議はしていますか

①一ウ ごみ処理施設建設についての工程は検討していますか

①一エ ごみ処理施設以外（搬入道路等）について検討していますか

柏市との文化会館共同設置について

柏市民文化会館の利用と共同設置についても質問をさせていただきました。

内容については、柏市民文化会館は開館してすでに37年過ぎており、耐震診断を行ったと聞いております。

文化会館の建設を考えるのであれば我孫子市と共同で建設を提案できないでしょうか。

建設候補地としては北柏霊園で問題となった我孫子市根戸字荒追であります。

回答では、「柏市の状況を踏まえ、相互利用も含め10月から協議していくことになっております。」でありました。

財政的にも非常に厳しい時であります但し市民の方々も首を長くして待っております。

教育文化都市を目指す我孫子市であります、小学校、中学校の合唱、

吹奏楽部のレベルも高く、朝7時前から学校に行き朝練をしている。

毎日毎日一生懸命練習した成果を、大勢の観客の前で発表会をさせてあげたい。

発表会をすることにより、励みにもなり、レベルアップにもつながります。

また我孫子市には沢山の芸術団体があり、活発な活動をしております。

我孫子市民フィルハーモニー管弦楽団も年2回けやきプラザで2日間定期演奏会を開催しており、いつも盛況であります。

もっと大きな場所で、沢山のひとと聞きたいと言う市民の声を多く聞きます、

又私もその様に思います。社会の活動の第一戦から退いた方が今後増えます、

書道や絵画等の芸術活動の発表の場を提供する事も大切です。

柏市との協議、期待しております。

★質問をさせていただきます。

質問 市民文化会館についての協議の進捗状況は

## ●大綱3、福祉行政について

障害者の日中活動の確保と充実について

平成18年4月1日から障害者自立支援法が施行されました。

障害の種別にかかわらず障害のある方が必要とする福祉サービスを利用できる様、仕組みが統一されました。

そして最も身近な市町村が一元的に提供することとされました。

障害者が地域で働き、活動、そして生活出来る事となったわけであります。

障害者が地域で安心して活動し、生活して行くためには、その方が希望する、

そして障害の程度に応じて社会参加が出来る様日中活動の場の確保、

また充実をさせる事が重要となってきます。

我孫子市では障害者の日中活動の場として、市直営施設として、昭和55年「身体障害者福祉センター（現在の「障害者福祉センター）」を開所し、身体障害者を中心に日中活動の場と地域リハビリテーション事業を展開しています。

知的障害者の日中活動の場としては、市直営の施設として、昭和63年に「あさき園」を開設し、知的障害者の更生施設として利用者の支援を行っております。

平成5年には、心身障害者福祉作業所として「みずき作業所」を開設し、

心身障害者の作業訓練、生活指導の支援を行って来ました。

特に「あさき園」においては、市内の知的障害者への中心になる施設として、

車いすを利用する重複障害を有する障害者や、

重度の障害者への支援も積極的に行っていると伺っております。

これらの支援により重い障害を持つ方であっても、家族のいる、住み慣れた場所で、その方なりの生活が送れる事が可能となります。

公設施設と共に一方においては、障害を持つ方の保護者の努力により支援者を得、福祉作業所が設立され、公設の施設と共に障害者の日中活動の場として

役割をはたして来ました。

今、障害のある方、特に日中活動の場を必要とする方が増えております。我孫子特別支援学校、松戸特別支援学校より毎年20名前後の方が卒業し続ける事が確実であると聞いております。

「あらか園」は現在定員を超過しておりますが、定員を超えても一定割合で受け入れは可能であるとの事ではありますが、増加が見込まれますので対策を立てなければならぬと思われまます。他の施設におきましても同様の状況ではないかと思ひます。

平成22年度からスタートした「我孫子市第4次健康福祉総合計画」において、重点施策として「障害者の日中活動の場の確保と充実」が掲げられております。ここでは「個々のニーズや状態などに応じた活動ができるよう、これまでの体制を充実させるとともに、新たな施設整備やサービスを提供する団体、事業者への支援を行います」とうたっています。

障害者の日中活動の場を取り巻く、非常に厳しい中で今後どの様な対応を図って行くのでしょうか。

財政状況は年々厳しくなっています。併せて障害者を持つ保護者の不安も大きくなって行きます。障害者本人と家族が住み慣れた地域で、安心して生活をして行くための支援をして行かなければなりません。

### ★質問をさせていただきます。

質問①ーア 日中活動の場の現状そして課題について、今後の取り組みについてお聞かせ下さい。

①ーウ 新たな施設整備と今後の取り組みについてお聞かせ下さい。

児童虐待について

日本人の心は変わってしまったのか。親子の愛はどこに行ってしまったのか。平成22年7月30日に起きた大阪での事件をニュース、新聞で見聞きすると涙が出てしまいます。

桜子ちゃん、楓ちゃん、心よりご冥福をお祈りいたします。

平成22年8月10日の読売新聞に「届かぬ叫び」という題で記事が1面の一部と11面全面に掲載されておりました。

児童虐待が社会問題になったことを受けて「児童虐待防止法」が施行されてから今年で10年になる。

これまで2度の法改正が行われ、児童相談所の権限が強化されるなど、早期発見に向けた体制は一応整備されて来た。

2度の法改正により、家裁の許可を得れば、児童相談所がカギを壊して強制的に立ち入る調査も新たに可能になった。通報義務については一般への認識が徐々に浸透してきており、早期発見は進んでいる。

しかし早期発見されても、深刻な虐待が行われている可能性が高いにもかかわらず、親が子どもを会わせない場合などは家裁の承認を得れば「強制保護」が可能である。

しかし虐待の実態や親の監護能力などについて厳密な要件がある。

法務省と厚労省は現在早期に子どもを守りたいとして児童福祉法の改正などを検討している。

「強制的な入所措置は親権を制限することにつながるため、

行政は過度に慎重になる傾向がある。

緊急性があると判断出来るのであれば、却下を恐れず、積極的に実行する必要がある。」と指摘している。

悲惨な事件が続く以上制度や体制の拡充はもちろん、虐待を見抜き、迅速に対応する専門家の能力向上も欠かせないだろう。

子どもの叫びを受け止めるにはなにが必要か、社会一体となって考える事が求められている。と記されている。

当市においては過去に不幸な事件がありました、昨年7回忌を迎えました。

私たちは、未来ある子どもたちの為に、この様な事件が起きる事の無い様努力しなければなりません。

厚労省も「児童虐待防止法」の強力な運用を行う方針との報道もありました。

★質問をさせていただきます。

質問①—ア 当市の事件以来当局も万全の体制で臨んでいると思います。昨年度は虐待についての通報または相談はありましたか。処理、結果は

質問①—イ 現在の体制で良いか、改善する所はあるか、検証する必要があるか

質問①—ウ 行政に権限の強化が必要と思います、法の改正を含め、国に働き掛けるべきと思いますが、如何ですか。

### ●大綱3、水道事業について

豊かさを実感できる水道について

我孫子市の水道事業については、水道事業年報「あびこの水道」によると昭和41年3月に厚生大臣の事業許可を得、昭和43年10月より給水開始されました。

平成19年7月に計画初年度を平成19年度として目標年度を平成30年度とする「我孫子市水道事業中期計画」を策定し、「豊かさを実感できる水道」を基本理念として推進。

水、水は生活の中で最も大切な物質であります。

水なしでは地球の生物はその生命を維持することはできません。

人は3日間水分を取らないと生命の維持が出来なくなります。

脱水状態が6%で頭痛が起きます、8%で呼吸困難、10%で失神、20%で生命が危険な状態になります。

人は体内にどの程度の量の水があるのか、古い文献ではありますが、東京大学医学部助教授であった荒木助教授の書いているものの中で、水分率は平均して、男性は体重の55%、女性は50%と書いている。

一般的には50~60%と言われている。

人はどれだけの水を必要とするのでしょうか。

荒木助教授によると「健康な日本人の生理的状态」で必要とする

水の総量は一人一日当たり2,000ccと言う。

また他の資料などと総合的に検証してみると日本人の場合平均して2,000~2,800ccが必要だと言っている。

摂取する2,000ccの水の収支は飲料水1,200cc、植物水分600cc、燃焼水200cc。

燃焼水とは食べ物が消化され、炭酸ガスと水になる時に出る水である。

日本は昔より良質の水が豊富に存在していた、

しかし、ヨーロッパなどでは紀元前より水道事業が行われ、紀元前312年アピア水路が世界最初の水道と言われている。

日本では江戸時代に江戸が大都市となり、水不足に悩まされ、神田上水や玉川上水がつくられた。

日本で最初に近代水道が開始されたのは1887年（明治20年）横浜市であります。

我孫子市においても、昭和43年より水道事業が開始され、市民に対し、安全で快適な、おいしい水の供給を行っております。

そして平成19年よりは「豊かさを実感できる水道」の基本理念の中に4つの施策目標を掲げております。4つの目標とは

1. 安全で快適な水を供給できる水道
2. 将来にわたり安定して供給できる水道
3. 環境に配慮した水道
4. お客様に信頼される水道  
であります。

★質問をさせていただきます。

質問①—ア 4つの目標の中で最重点目標は何ですか、現在の進捗状況は

質問①—イ 4つの目標の中で最も困難な目標は何ですか、また対策は

①—ウ 水道未普及地区の解消がありますが、現在の状況と見通しは

①—エ 危機管理体制の中で、もし浄水場がテロ攻撃にあった場合の対応についてマニュアル作成  
又対応訓練等行っていますか

老朽化配水管の交換について

水道事業開始から42年経ちました。

昭和40～50年代に配管した配水管の耐用年数は20～30年と言われております。

水がにごる、水がにおう、赤さびが出るなどの問題も発生します。

また耐震強度劣化、腐食劣化等も発生します。

★質問をさせていただきます。

質問 耐震強度劣化等問題のある配水管の交換工事の状況と見通し、新しい管  
の耐用年数と強度をお教え下さい。

以上で緑政クラブ会派の代表質問を終わりにいたします。

大綱4点につきまして明快なるご答弁をお願い致します。

ご静聴ありがとうございました。